

「ダンゴムシ迷路」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

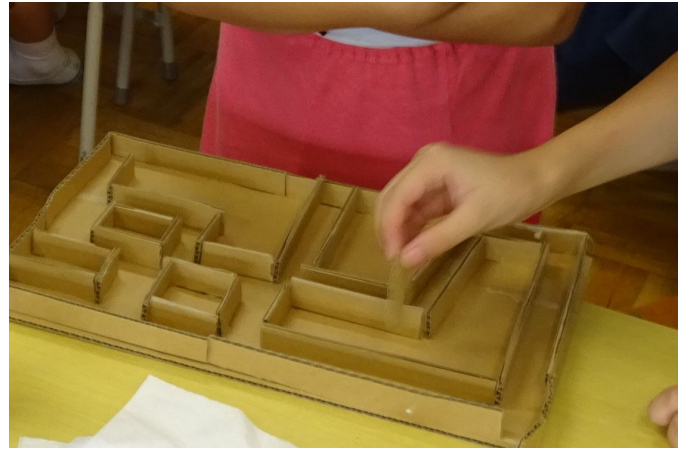
1学期の6年生の創造活動の一つとして「プロジェクト・校外学習」を実施した。同じ興味・関心を持ったグループ(3~10人程度)がそれぞれ計画を立て、博物館や野外施設などで活動するものである。その中に、「多摩六都科学館」で活動したグループ(女児4名)があった。そこで体験した「ダンゴムシ迷路」に興味を持ち、学校でもやってみみたいというので、材料を用意してあげた。



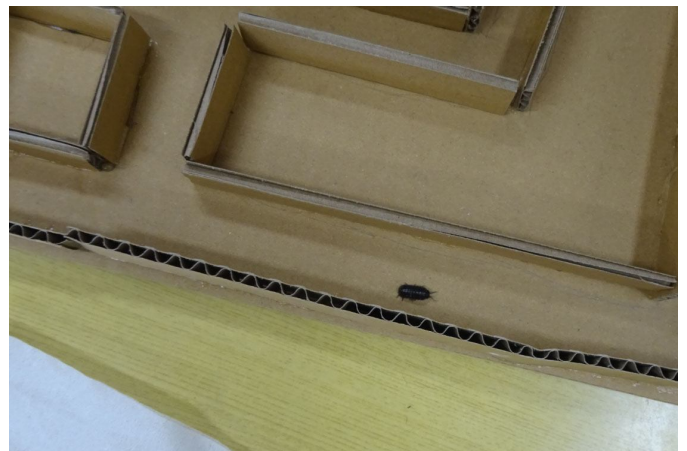
これが完成したダンゴムシ用の迷路。廃品の段ボールを細く切って、木工用ボンドで貼っただけで、「ビー玉迷路」と同じ作り方だ。ダンゴムシは「潜る」「這う」という動作は得意だが「登る」のは苦手だ。高さわずか2cm程度の壁でも、逃げ出すことはできない。



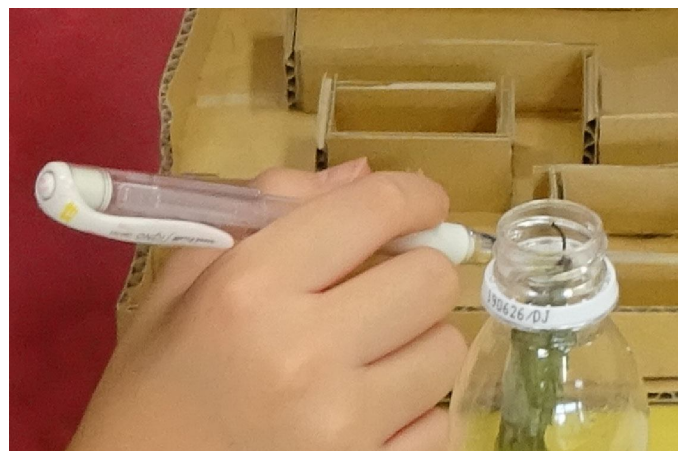
ダンゴムシは、学校の畑周辺の落ち葉から、自分たちで捕まえてきた。ダンゴムシは必要な時に、確実に手に入るの、「便利な虫」である。



女児4人は全員ダンゴムシが好きなのだが、「好きでも触れない」という子もいる。そのあたりはうまく「分業」して進めていた。



ダンゴムシを迷路に入れると、基本的には「壁に沿って」進む。ルンバ(お掃除ロボット)と同じだ。「一度通った道は、2回目は短い時間で通れる」「行き止まりではUターンする」など、いくつかの行動の特徴に気付いたようだ。



たくさんのダンゴムシの個体を区別するのは難しい。白のペン(写真の文字を書くペン)で、背中にマーキングをすることで区別していた。夏休みは各自が研究するそうなので、成果が楽しみだ。